

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	Fairy Talesに現れた古形の機能について
Author(s)	橋内, 武
Citation	ニダバ , 5 : 50 - 52
Issue Date	1976-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046309
Right	
Relation	



Fairy Tales に現われた 古形の機能について¹

橋 内 武

I はじめに

「シンデレラ」(‘Cinderella’)や「白雪姫」(‘Snow-drop’)など西洋の昔話(fairy tales²)を読んでいると、現代英語の通常の形と相並んで、対話文中ときおり2人称代名詞や動詞・助動詞に古形が使われていることに気付くものである。ここでは特に2人称代名詞 thou, thy, thee に注目し、それが、どのようなコンテキストの中で用いられ、どのような機能を果しているかを考えてみたい。テキスト(「シンデレラ」と「白雪姫」)は、Iona and Peter Opie, The Classic Fairy Tales (London: Oxford University Press, 1974)によるが、引用する折、句読法と正書法を筆者が若干改めた所のあることを断っておく。

II 「シンデレラ」の場合

先ず「シンデレラ」(‘Cinderella’)の話を取り上げ、それをもとに you と thou に関する仮説を提出してみよう。

さて、「シンデレラ」の中で2人称の古形が出てくるのは、次の場面である。2人の継姉が着飾って舞踏会に行ってしまうと、感極まってシンデレラは泣き出すのだが、そこに魔法使いの妖精(fairy²)が現われる。妖精は、シンデレラに向かって次のように言う。

1. “Thou wishest thou could’st go to the ball, is it not so?”
2. “Be but a good girl and I’ll contrive thou shalt go.”

(1と2共に引用符は筆者による付加)

同じ「シンデレラ」の中でもシンデレラと継姉の間の会話では、どうだろうか。姉たちが舞踏会に行くので、シンデレラはその支度をしてあげているという場面がある。その会話文を取り出してみよう。

3. They said to her, “Cinderella, would you not be glad to go to the ball?”(テキストでは、Cinderilla と綴っている)
4. “Ah!”, said she, “You only banter me; it is not for such as I am to go thither.”

5. "You are in the right of it", said they, "it would make the people laugh to see a Cinderbreech at a ball." (3～5引用符筆者)

ここで they は2人の姉、she はシンデレラを指すのだが、互いに相手を you と言い、古形 thou を使っていない。

「シンデレラ」に現われた5つの文例からひとつ仮説を引き出せると思う。

- A you と thou, your と thy, you と thee は、互いに自由変異ではなく、
B you, your, you の系列は、人間同志が話し相手のことを言う場合に用いられるのに対し、
C 古形 thou, thy, thee は fairy² (を代表とする人間に似た想像上の生きものや魔法のかかっている物体)が、人間に話しかける時に用いられる。

Ⅲ 「白雪姫」の場合

上記の仮説が当たっているかどうか、ひとつ「白雪姫」(‘Snow-drop’)で試してみよう。りんご売りの老女に変装した王妃は、白雪姫に向かってこういう。

6. Do as you please, but at any rate take this pretty apple ; I will make you a present of it.

ところが、白雪姫はそれを受け取ろうとしない。そこで老女は、

7. You silly girl ! What are you afraid of ? Do you think it is poisoned ?
Come ! Do you eat one part, and I will eat the other.

と言って、白雪姫に毒入りのリンゴを食べさせようとするのである。御存知の通り、白雪姫は、過ってこれを食べてしまうのである。さて、ここでの二人称代名詞は you になっている。これは老女(王妃)が白雪姫に向っていう「人間同志のコミュニケーション」であるからだろう。それゆえ、6と7は仮説Bの傍証となろう。

「白雪姫」には、魔法にかかった鏡(ある種の fairy²)が、王妃の問に答える場面が幾度か出てくるが、そこに現れるのは古形 thou や thee である。

8. Thou, queen, art the fairest in all this land.
9. Thou, queen, may'st fair and beauteous be, but Snow-drop is lovelier far than thee !
10. There Snow-drop is hiding her head, and she is lovelier far O queen ! than thee.
11. Thou, lady, art loveliest here, I ween; but lovelier far is the new-made queen.
8～11の例は、いずれも fairy (ここでは魔力のかかった鏡)が人間(王妃)に向って言ったことば

である。2人称代名詞の古形に関する仮説Cは、ここに傍証を得るのである。

Ⅳ む す び

ごく少数の事例を使ったにすぎないが、以上の所を次のようにまとめることができよう。

- (1) fairy の登場する昔話 (fairy tales) の対話文には、相手のことを言うのに you, your, you の系列と thou, thy, thee の系列の双方が用いられている。
- (2) それら2人称代名詞は、自由変異 (free variation) をなしているわけではなく、次のようなコンテキストに依存するのである。
- (3) you, your, you は、人間同志 (例えば、シンデレラと継姉、王妃と白雪姫) が互いに相手のことを言う場合に用いられる。
- (4) thou, thy, thee といった古形は fairy が人間 (例えば、シンデレラや王妃) に話しかける時に用いられる。
- (5) (3)と(4)の論を押し進めていくと、you/thou の区別は、人間界と非人間界の峻別を意味するだけでなく、you などの形は日常的・世俗的機能を演じ、thou などの古形は日常的・世俗的世界からの脱却という云わば神秘化の機能を果していると思われるが、如何なものだろうか。

さて、このようにまとめてみたものの、結論を急ぎすぎた感がなくもない。今後多くの童話・民話の類に当って検証してみたいものである。荒削りの分析ではあるが、fairy tales の言語学的研究に何らかの寄与が出来たとするならば幸いである。³

註

- 1) 本稿は、第3回「言語と人間」研究会 (1975年12月6日 於青山学院大学) で「fairy talesにおける古形の機能について」と題して口頭発表したものの要旨である。
- 2) fairy と fairy tales の定義については、Standard Dictionary of Folklore, Mythology, and Legend (Funk & Wagnalls, 1972) を参照のこと。
- 3) 上記の2つの話は、(1)fairy の現われる fairy tales である。(2)テキストに関して言えば、「シンデレラ」の方は、1972年にペローの昔話集 (フランス語) から英訳されたものであるし、「白雪姫」の方は、1823年にグリムの昔話集 (ドイツ語) から英訳されたものである。だから、人のみが登場する昔話にあっては、you/thy の区別は、筆者がここで述べた以外の基準によるはずであるし、また20世紀後半の今日書かれた英文昔話集に古形が現われない (ことが多い) のは当然のことであろう。

1975年12月24日